

令和5年度後期「自然共生サイト」認定 「里山の花畑と崇台山の山麓」視察

申請者：里山の花畑・里の小屋友の会

実施日：令和6年10月19日 午後1時半～4時半

参加者：10名 国安俊夫、酒井千富、奈賀由香子、櫻田稔、井上金治、西村良子、高橋陽子、金子昭一、本多洋治、常見智之 +1名 佐藤伸一（蝶の専門家）

[環境省自然共生サイトはこちら](#)



[ぐんま百名山](#)



「里山の花畑と崇台山の山麓」は令和5年後期の環境省自然共生サイトに認定されました。

今回は、昆虫の専門家である佐藤氏と一緒にアサギマダラ飛来地、崇台山山頂サイトの視察観察を行いました。視察後、管理者の櫻田氏に認定までの経緯などを伺いました。



アサギマダラは、20℃程度の環境を求め毎年台湾辺りから北上して来ます。群馬県では、平地が高温になるため、夏場は高地で過ごします。秋になると平地に降りて来るそうです。

ここでは、春と秋に確認されるそうで、当日もいくつかの個体がフジバカマを訪れておりました。

ぐんま百名山のひとつ崇台山は、標高299mと高くはないのに、赤城、榛名、妙義の上毛三山を始めとする県内の山々そして浅間山、ハケ岳、遠くは筑波山まで一望できる眺望の良さである。(山頂の説明版より)

櫻田氏によると崇台山への登山口である谷津田が、耕作放棄地となって荒れ放題であったのを見ていられなかったというのも、里地里山の再生を始めたきっかけであったとのこと。



現在の花畑は谷津田であったが、耕作放棄地となり荒れてしまった。地元有志が立ち上がり里山の再生ムードを盛り上げたことにより、賛同者が集まり維持管理の体制が整い現在に至っている。

棚田・二次林は変わらず維持されている。旧谷津田は、草地や水辺環境になっていて、ビオトープの形態をなしている。(自然共生サイト資料より)

本サイトは、魅力ある里地里山を生物多様性・山地生態系の保全をサステナブルに展開し、登山者や花畑来訪者に自然愛護の大切さを提唱していく中で、植物や昆虫などの観察会や撮影会を開催しており、県内外のナチュラルリストに多くの評価をいただいている。(自然共生サイト資料より)

自然共生サイトの認定を申請するにあたり、里地里山生態系について勉強することで多くの方と関わる事が出来た。また、その繋がりから新しい気づきを得ることになり、それが、また、新しい繋がりなりと、良い循環が出来て来たと思う。里山保全活動を行っている多くの団体にも、ぜひ、目指して欲しい。(櫻田氏談)

ここでは、現在、ゲンジボタル、ヘイケボタル、シュンランなど昆虫類や植物の希少種が確認されているとのことであった。

また、今回の訪問で観察できたアサギマダラも、現在ここに来ていいるが、活動の最初の取り組みは、これら呼び寄せようとしたわけではなく、

「秋の七草をすべて観測できる場所としたい」ということから始まったのだそうで、とても興味深かった。(参加者より)

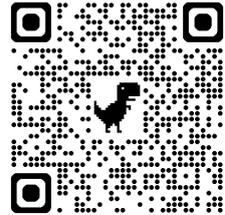


なお、今回事前に環境負荷の少ない公共交通機関を使用するよう働きかけたところ、8名の方が電車で安中駅に集合し、デマンド運行バスを利用し往復するとともに、終了後安中駅前で簡単な反省会を行った。

また、同日東京新聞の取材があり、10月22日の東京新聞群馬栃木版に記事が掲載された。

[東京新聞web](#)

安中の環境省認定「崇台山の山麓」 共生サイト増へ課題共有



環境省認定「崇台山の山麓」

共生サイト増へ課題共有

安中 県環境アドバ
イザー連絡協議

会自然環境部会は19日、環
境省の「自然共生サイト」に
認定された安中市上岡仁田
の「里山の花畑と崇台山の
山麓」で勉強会を開いた。



部会員にレクチャーする桜田さ
ん（左から2人目） 安中市で

2022年の国連生物多
様性条約第15回締約国会議
（COP15）で生物多様性
に関する新たな世界的枠組
み「昆明・モントリオール
生物多様性枠組」が採択さ
れ、30年までに海と陸の30
%以上を保全する「30by
30目標」が主要目標の一つ
に定められた。これを受け
環境省は、企業の森や里地
里山、都市の緑地など「民
間の取組等によって生物多
様性の保全が図られている
区域」を同サイトに認定す
る取り組みを始めた。
勉強会には部会員9人が
参加し、同所でチョウ類の
モニタリングなどを行う佐
藤伸一さんと、保全活動に
努める「里山の花畑・里の
小屋友の会」の桜田稔代表

がレクチャーした。
協議会の井上金治代表は
「昔の里山を思い出させる
場所で、会的情熱を感じた」と話した。環境部会の国安
俊夫会長は、自然共生サイ
トを県内でさらに増やすに
は「保全などに取り組む」
人材を探し求める必要があ
ると思う」と指摘した。

（樋口聡）